

辺野古土砂北九州

発行…2023年11月号・No.46



80分の長い講演でしたが、あっという間に終わった気がしました。また、時間通りピタッと終わったのも「さすがアナウンサー」と感心しきり。質問タイムでは、質問もその回答も中身の濃いものでした。

《目次》

- 【三上智恵監督講演会】報告・感想文・カンパ報告…………… 2 ページ
- 【沖縄】沖縄のジュゴン個体群の回復を夢みて(鈴木雅子)…………… 8 ページ
- 【大分】日出生台での日米共同訓練抗議集会に参加して(宗吉信)…………… 11 ページ
- 【連続エッセイ】「戦没者名名簿」を読む④(浦島悦子)…………… 13 ページ
- 【その他】インフォメーション・日程…………… 14 ページ

写真提供…鈴木雅子・藤堂均・宗吉信



発行 「辺野古土砂ストップ北九州」

三上智恵監督講演会に 200 人を超える参加者 すでに九州も…広がる要塞化

「流れるプールもみんなが足を止めれば流れが止まる」と監督

11月4日(土)、ムーブにて「三上智恵監督講演会」を開催しました。参加者からは「会場に熱が広がっていた」と言われるほど、監督のお話や動画に集中する参加者の姿が見られました。当日の感想文を中心に、監督のお話と質問タイムの内容を、少しですがお伝えします。

まず、三上監督の講演のほんの一部を紹介します

去年暮れの「3文書」以降、沖縄だけが大変じゃないことは、皆さんも肌で感じておられると思う。

海からも空からも、第一列島線を超えて中国が太平洋に出て来ることが、アメリカは許しがたい。太平洋の権益に中国が手を出そうとしたら、それは許さないというのがアメリカ。中国のミサイルの飛距離が延びて、核で直接アメリカを攻撃する状態になりかねない。中国は海軍が弱い。だから海上自衛隊が強い日本列島に引きつけて戦い、限定された地域で短期間に紛争を終わらせようとしていることが、明らかになってきた。

*

与那国島では全島避難訓練があった。国民保護法で国民保護計画を、国(直接は知事が)が島々の市町村に委託して作らせている。そして真っ先に作らされたのが与那国島。今年2月、与那国島のホームページに載ったのは、《一人リュック 1つまで。 集合場所まで歩いて行き、バスに分乗して飛行機や船で避難する》そうだが、ミサイルが飛んでくると言うのに、まるで町内旅行のようだ。飛行機では、直接、福岡や熊本に来るようだが、福岡と熊本には、先島諸島(宮古島・石垣島・西表島・与那国島等)の 12 万人の



会場の様子

受け入れ体制の話は、これが出た時には伝わって
なかった。

*

2016年、与那国はもめにもめたが、自衛隊は「沿岸警備隊」と言って堂々と入ってきた。「自衛隊がいてくれた方が安心なんだ」「ミサイル部隊は絶対に来ない」と言っていたのに、ミサイル部隊も来だし、アメリカ軍は絶対入れないと言っていたのに、何も言わずにやってきた。住民は何も言えなかった。与那国島は安心だと言われたのに、なぜ与那国が最初に島から避難する話になっているのか。与那国で起きていることは石垣に起きる。石垣に起きていることは宮古島に起きる。

*



第一列島線と、第二列島線

与那国島に 電子戦部隊が来ることが決まった。ミサイル基地ができることも決まった。ものすごく巨大な軍港も作られるということで、これは大浦湾に匹敵する大工事になっていく。こうやって島が潰されていく。

質問タイムの中から、2つご紹介します

質問…米国は、辺野古より南西諸島の方が大事なの？

三上…辺野古が普天間の代わりというのは茶番。弾薬庫と飛行場と軍港が一体になったものが作りたかっただけ。しかし、2010年くらいから、中国のミサイルが届くようになったので、大きな基地の必要がなくなった。米軍の家族の大多数は、沖縄から出て行った。沖縄は、ローテーションで回って来る兵隊さんがメインになった。辺野古は自衛隊の出撃基地になる。普段は自衛隊が管理するという風が変わってしまった。今は40の島々を移動しながら、中国のミサイルに対して、どう反撃するかの方が大事になっている。

質問…今沖縄で 比較的若い人たちが、反対のために様々な形で取り組みをしている。11月23日には1万人集会をするそうだが、そのことをどう思うか

三上…これまでの大きな集会は、労働組合とかいろんな団体がバスを出して、組織力で10万人集めてきたところがある。そういう組織ではなく、本当に個人のつながりで1万人集めようとやっている。若い人は「反対」とか「糾弾」とか、負のオーラがある場所には怖くて行けない。もっと前向きな、みんなが参加したくなるようなものだったらいいのに」という。それに対しお年寄りの側は「今までの私たちの運動を評価してくれていないのか」「愛とかピースとかでミサイルが止められるのか」と、ヒリヒリ

する時間がたくさんあった。しかし、「若者がこれを出したいんだと言っているのなら…」ということで、「争うより愛しなさい」（沖縄の若者の間で有名なラッパーのおばあの言葉）というスローガンを、一番最初に持ってくることになった。そしたら、若者の顔がパッと明るくなって、「じゃあ キッチンカーを持ってきましょう」とか「家族が来られるような雰囲気にしましょう」とかで、今度の1万人集会を迎えることになった。平和運動が乗り越えて行かなければいけない局面だと思った。今、デニーさんを応援する若い議員の会も作られた。2023年は、若い世代の盛り上がりがある。そこに光を感じる。



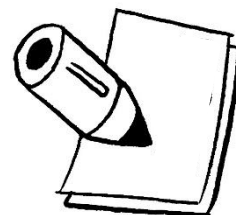
質問タイム進行役の天久泰弁護士(左・当会顧問)と三上監督



質問タイムでは、途切れることなく質問が続き、講演の内容を、さらに深めることができました。

参加者から寄せられた感想文の一部をご紹介します

- 今、映像でウクライナやガザを爆撃する場面を目にすると、いかに戦うことが残酷で、公の殺人にしか思えないのに、闘おうとするのか。やはり知らないことをたくさんつきつけられて、知らない人に少しでも広めていかないといけないと思いました。ありがとうございました。(年配の方のパワーをひしひしと感じました。自分自身、先が短いからとかではなく《私自身のことです》、将来のことも考えなくてはならないことを改めて実感させられました。) (60代・市外)



- 九州と沖縄共に軍事要塞化が進んでいること、よくわかりました。南西諸島の人々の闘いに感動しました。私もあきらめずがんばります。

- 知ることが大切だとあらためて感じました。ありがとうございました。
(50代・小倉南区)
- いろいろと考えさせられました。私も沖縄での戦争を二度とくり返して欲しくないと思っている一人です。(40代・若松区)
- 切実感をもって行動に移していかなければと思いました。まず、事実を知ること、そして伝えることから始めたいと思います。ありがとうございました。
(60代・市外)
- 43兆円の軍事費で、世界中の無医村から医者を作るという案を聞いて感動しました。11月23日“争うより愛しなさい”のスローガンすてきです。(70代・戸畑区)
- 世界中に日本で教えたお医者さんを送るという案は、とても良い案だと思います。私も、世界のできるだけたくさんの国で友達ができれば、友達のいる国と戦争をしようと思わないはずだと思うので、たくさんの人と友達になりたいです。
(20代・八幡西区)
- 石垣のオバアが、同じウチナンチュである沖縄県警に取りおさえられている映像は、悲しかった。普天間基地閉鎖した際と同じ光景だ。それをフェンスの中から見下ろす米兵。それと同じである。「中国やばいよね」「北朝鮮やばない」という声が与那国、宮古、石垣に基地を作らせている。しかしながら、2016年以前は与那国島には2か所の沖縄県警の駐在所しかなかった。また好漁場である尖閣諸島沖合を跳梁跋扈する中国海警、そこはどうしても、基地はやはり不可欠だというのが私見だった。ジレンマである。
昔、沖縄料理店で金武町出身のウチナンチュから言われた。「いまは沖縄ブームなので、沖縄出身というだけで、こういう場だとヒーローみたいになってしまう。でも基地問題となると皆まるで無関心、それに違和感がある。」
やはり、日本国民の1人1人が、沖縄に心を寄せることが何よりも大切だと思う。だって、沖縄問題の本質は日本の安全保障が凝縮されているのだから。
(40代・小倉北区)
- 住民の平和な生活を奪って、いったい何を守るんだろう？ 憲法9条という最良の武器があるのに…。そうです、何年後かに、少なくとも軍拡を容認する側にいたという思いをしたくないので、ここに来たんです！ 自衛隊は有事は住民の命を守らないけど、隊員の命を守るのは有権者というフレーズはすてきです。(60代・小倉南区)

●南西諸島だけでなく、九州も危ない。佐賀のオスプレイ、大分のミサイル配備、アメリカの中国に対する戦略が良く理解出来た。(60代・小倉北区)

●日本の軍拡が、アメリカの軍事戦略にもとづくものであることが、よくわかりました。日本政府がアメリカに全く頭が上がらない現状を憂えています。日本の国民が、今の構図を正確に認識していない。そんな人がいかに多いかということ、痛感します。だまっていたら、ますます事態が悪化することにしかならないので、今日のような話を一人でも多くの人に聞いてもらうしかない。(70代・戸畑区)



講演中の三上監督

●後期高齢者の一人で、戦時中生まれ、戦争体験無しですが、沖縄へは、パスポート持参と、その後の日本への復帰後の2回旅行しました。小・中・高校と歴史は一通り学んできましたが、社会に出、生活(仕事を含む)していく中で、戦争の起因等は余り聞く事はなく、どの国も自分の国を守るために、日本では自衛隊があると教えられてきましたが、たまたま医療機関に就職できた時に、人間の生命と健康を守る事の大切さと、平和運動に足をを入れて行く中で、一人一人が考えて行く事を、本日の講演と映像でさらに強くもめました。私よりも年上の方が声を出して訴える姿に改めて、涙が出ました。地元では平和を守るために戦っている団体にも加わって学びながら、若い人たちに伝える事の大切さを強くしました。

教育のあり方にも問題があり、政権を握っている政党が、自分の都合の悪い事にフタをする事でマスコミにも現れ、「本当」の事が分からないようになってきている危惧があります。ボツボツですが、いつも「若い気持ち」で訴えていきたいと思います。

●沖縄のみならず、九州のあちこちが“戦場”。軍事化は目に見えない形で進んでいくものだなという恐怖を感じます。勉強を続けていきたいと思います。

●とても良かったです。映画の中の山里さんはとても迫力があり、歌も良かったです。もっと聞きたかった。ミサイル基地はいらない。(70代・県外)

●自衛隊員と辺野古の住民は同じ日本人なのに、抗議をする人を抱えて外に出す！年寄の方が多。反対運動をする人々に対して、自衛隊の隊員の人達の胸中は…痛まないのか…。もうすぐ総選挙があります。岸田総理の支持率が下がり続けている今、野党は頑張っ、自民党をぶつつぶして辺野古の工事は中止に出来る様に…がんばろう！

- 問題意識を持つ以前に、情報をシャットアウトされて、いや、ぬるま湯につかって自分から耳をふさいで生きて来た。沖縄、南西諸島がすごいことになっている現実におどろきました。参加して良かった。(70代・小倉南区)
- 私自身が60代半ばですが、明らかに私より年上と思われる方々が会場に多く、頭をかかえる気持ちになりました。けれど、最後に若い人たちと共にやっているとのことのお話がきけて、少しよかったです。(60代・小倉南区)
- 10月1日の福岡県母親大会で、三上さんの講演をお聞きし、これはもっとちゃんと知らないといけないと思い、今日、参加しました。一番大切なのは有事がおこらない平和外交に重心を移すことだと思うので、三上さんの軍事費をつかってお医者さんを育てて全世界へ送るアイデアはすごくステキだと思いました。最後の若い人達の新しい動きもいいな~と思います。(50代・八幡西区)
- むずかしかった。(50代・小倉南区)
- 10年前に辺野古のヘリ基地協の方々を訪問し、基地建設の不条理さを聞きましたが、反基地運動の陰で恐ろしいことが静かに進行していることに驚きました。実に恐ろしい状況で、まさに現代版太平洋の捨て石に九州・沖縄がなりつつあるという感じがしました。今日は、目が覚めるようなご講演、ありがとうございました。(50代・市外)
- 三上さんのFBなどで発信をこれまでも見てきましたが、直接お話しを聞き、更に具体的に伝わってきました。ありがとうございました。テレビやヤマトの新聞が伝えないことを必死に伝えておられることで、じわじわと伝えられてきていることを感じます。それぞれが、アイデアを出し合ってがんばりましょう。(60代・小倉北区)
- 重い、重い、でも、重大な話を聞くことができました。今のところ、出るのはため息です。身近でひしひしと、戦争の足音を聞くのを感じます。九州と沖縄が同じ状況だということが良く分かりました。メディアの動きがないのが残念です。現場の話聞くのが大事だと思つづく思いました。若い人の話、勇気づけられました。応援したいです。(市外)



講演会終了後、みんなで記念写真。後列真ん中が三上監督。監督はこの後の新幹線で、岡山に向かわれました

●「台湾有事」という作戦の下で合同訓練を進める米軍と、それに乗って軍事費 43 兆円・長距離ミサイル開発と騒ぐ岸田首相に、強い怒りを覚えます。講演会で、自分たちの暮らしを守ろうと必死にたたかっている人々の姿を、12分の動画の中で見ることができ、涙が出ました。また、監督の映画を作る苦悩を垣間見ることもできました。今日話に出てこなかったけど、築城基地も米軍基地化が進んでいます。(70代・小倉北区)

●武力で平和はつukれないことは、ウクライナやガザの惨状を目のあたりにして、明らかなはずなのに、それにもかかわらず、大軍拡の道を選んでいる日本の政府に、ほんとうに憤りを感じています。三上さんのお話を伺って、私が考えている以上に九州、とくに大分、佐賀の差し迫った状況にあることを知って、いよいよ恐怖を感じます。抗っても抗っても、のれんに腕押し、ぬかにくぎの状態ですが、あきらめずに頑張っていきたいと思います。山里さんの訴えに涙がとまりませんでした。今日は貴重なお話をありがとうございました。(70代・八幡東区)

ガザ人道支援募金に 53,600 円

緊急に取り組んだガザ人道支援募金ですが、講演会で 53,600 円が集まりました。この募金は 11 月 7 日ユニセフに送金しました。ご協力ありがとうございました。



あなたも県民平和大会に参加しませんか

沖縄のジュゴン個体群の回復を夢みて

地道な市民調査が沖縄県を動かす…開始された知見の収集

北限のジュゴンを見守る会 鈴木雅子

■ジュゴンの背中には、米軍基地が付いている

1998年1月、沖縄で日本テレビが初めての野生のジュゴンの映像をキャッチし、社会に大きな衝撃を与えた。

「絶滅」したと言われていたジュゴンの生存確認がされ、私は、当然国も自然保護団体も、直にジュゴンの保護対策に乗り出すと考えていた。しかし、一向にその動きはない。自然保護団体や環境省に保護対策が始まらない理由を尋ねると、須く「沖縄のジュゴンは普通のおばさんが考えるように簡単じゃない！なぜなら、ジュゴンの背中には米軍基地が付いているから…へたに手を出すと火傷する」と言う。

沖縄の自然の素晴らしさと反比例した米軍基地問題の壁に悶々としてしていると、野鳥保護、哺乳類保護の研究者や学生、市民が集い「北限のジュゴンを見守る会」という小さな保護団体が1999年の秋に誕生した。

■みんなで立ち上げた「北限のジュゴン調査チーム・ザン」

2000年4月、東京一京都一沖縄を繋いで国際シンポジウムを開催、地元でジュゴン保護活動をして来た2団体を中心に、海棲哺乳の研究者の第一人者である三重大の粕谷俊雄教授、オーストラリアのジェームス・マック大学（James Cook University）のヘレン・マーシュ教授を招聘し、WWF ジャパンと共に、日本初の野生のジュゴンの保護運動を開始した（飼育下のジュゴンのシンポジウムは既に鳥羽水族館で開催）。

その後は、都内でジュゴンに関わる学習会やイベントを活発に開催していたが、



2014年に来沖されたガヴァン・マコーマック博士（オーストラリアの歴史学者）を迎えて、仲間とジュゴンの海を案内。



現在唯一飼育されている、鳥羽水族館のジュゴン

2004年、ジュゴン保護基金の東恩納琢磨氏より「ジュゴンの海底に穴が開けられる！（海底ボーリング）」との緊急連絡が入った。

私はその呼びかけに呼応して、辺野古海上案の阻止行動に駆け付け、地元のお年寄りを中心とした辺野古テント村の座り込みに、参加するようになった。また、海上櫓に住民たちが座り込み、防衛局との身体を張った阻止行動の凄まじさを肌身に纏(まと)って、沖縄と東京を往復する中、地元名護市に「北限のジュゴンを見守る会・沖縄事務所」を開設して、永田町に現地情報を届ける役割を担った。

2007年には、現存するジュゴンのモニタリング調査(餌場の食み跡調査)のために、サンフランシスコ州立大学のエレン・ハインズ教授や、フィリピン大学の海草専門家であるレムニュエル・アラゴネス博士を招聘し、浦島悦子さん(ジュゴン保護基金)や細川太郎氏(ジュゴンネットワーク沖縄)ら地元有志にて、「北限のジュゴン調査チーム・ザン」を立ち上げた。

■姿を消したジュゴン A、遺体となったジュゴン B

当時、沖縄本島周辺海域に生息し、個体識別の出来ていた3頭のジュゴンの内、オスと確認されていた個体 A は、主に東海岸をすみかとしていて、私たちの周年の食み跡調査の対象であった。

また、西海岸の北部をすみかとしていた個体 B は、子連れであることが確認されて、その子どもとして性別不明の個体 C が生息していた。

しかし、辺野古海上案から紆余曲折の末、沿岸案や陸上及び浅海域の埋め立て工事によって、本島周辺海域のジュゴンの生息環境は攪乱され、やがて辺野古海域に近い嘉陽海域にいた個体 A は姿を消した。

そして忘れもしない2019年の春、西海岸古宇利島沖を生息地とする雌個体 B が遺体となって運天港に上がった。沖縄島のジュゴンの個体群の繁殖の望みは失われた。しかし、残された個体 C は、今も沖縄島周辺海域にその生存の軌跡を残し続けている。



前ページ写真の、ガヴァン・マコーマック博士と辺野古のテントで。※後列右が筆者の鈴木雅子さん。

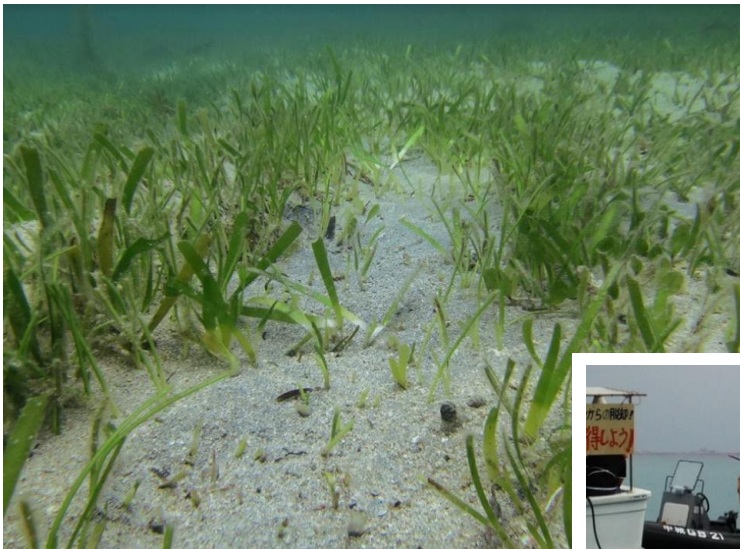
■ジュゴンよ命をつなげ

昨年の今頃は、名護市西海岸の東江海岸でも目撃情報があり、この1年間でも良好な餌場「海草藻場」がある所に、ジュゴンの食み跡や糞が発見されている。モニタリングの対象である個体を失い、調査チームとしての活動は休止中であるが、有志によりジュゴンの情報収集は欠かさず、また生息痕跡の追及も怠ることはない。

幸い、地道な市民調査は腰の重い沖縄県を動かし、僅かな予算ではあるが沖縄県全域のジュゴンの知見の収集が開始されている。

この11月9日には、沖縄県自然保護課による宮古島に生息するジュゴンの保護対策の会議も、現地で開かれる。私も浦島さんも現場から離れられない事情なので、会議にはチームの若いメンバーがWEB参加して、しっかりと情報交換し、市民の意見を反映させるつもりである。今も数々の困難を超えて、いのちを繋ぐために活発に餌場を探す沖縄島のジュゴンが、やがて宮古島に複数生息すると予想されるジュゴンたちと出会って、沖縄県ジュゴンの個体群の回復に繋がることを私たちは夢みている。

(すずきまさこ)



海草藻場に残るジュゴンの食み跡



食み跡の調査の様子

海人たちと海保との攻防



2015年、サバニ(南西諸島で古くから使われていた漁船の名称)で海上抗議行動



ジュゴンの取材に来た、テレビクルーのみなさん

「声を上げないと賛成の中に数えられてしまう」

日出生台での日米共同訓練抗議集会に参加して

辺野古土砂ストップ北九州 世話人・宗吉信

■初めての年2回開催

10月22日(日)に、大分県の陸上自衛隊日出生台(ひじゅうだい)演習場で行われていた「レゾリュート・ドラゴン23」(陸上自衛隊と沖縄米軍海兵隊による共同訓練。離島防衛を想定して10月14日から31日まで、5県と北海道で実施。日出生台では、日米計約4100人が参加し、実弾射撃訓練)に対する抗議集会に参加して来ました。日米共同訓練は毎年1回、大体2月に行われてきたのですが、今年は初めて同じ年で2回目の訓練が行われ、更にオスプレイも来るという大規模なものでした。

■地元だけでなく、福岡や山口からも

集会の正式名称は、確認された共同宣言によると「日出生台で8回目となる日米合同軍事演習に抗議し、即時中止を求めるゲート前集会」という長〜い名前になるのでしょうか。70人近くの参加だったようで、主催者が「こんなに必要ないかもしれないと思って用意した共同宣言文60枚が足りなかった」という、喜ばしい結果でした。僕はまだ3回目の参加ですが、北九州からはずっと前から参加している人たちが多く、車に乗り合わせた7名で参加しました(他のグループでも数名参加されていました)。

地元の日出生台、湯布院はもちろん、大分市の陸上自衛隊大分分屯地への弾薬庫新設に反対する住民代表、主催した「草の根の会・中津」(梶原得三郎代表)、福岡県内各地、山口県(下関、岩国、上関)、他各方面からの参加・アピールがありました。また、直接当事者の参加ではありませんでしたが、佐賀空港のオスプレイ基地反対運動からのアピールもありました。

■オスプレイが8機も参加

この日は日曜日だったためか、演習は行われていないようでしたが、今回特に注目されたのが、陸上自衛隊と米海兵隊のオスプレイが計8機も参加するということでした。この日も抗議集会が始まる前に3機のオスプレイが日出生台上空を飛んで、近くの十文字原演



主催者挨拶をする「草の根の会・中津」の梶原得三郎さん(前列左)

習場で給油しており、集会中にも飛んで戻ってくるかもしれないという報告がありました。結果として集会中は戻ってきませんでした。湯布院の静かな環境が、日曜日まで騒々しいものになっているのを、観光客はどう感じているのかなと思いました。今、湯布院には、この演習の仮想敵国とされる中国からの観光客もたくさん来ていて、歓迎しているのという地元からの報告もありました。

また、地元の畜産農家にとっては、10月は1年分の牧草を刈り取る大切な時期で、例年は訓練に支障がない範囲で、演習場内での刈り取りも認められていたそうです。防衛省との話し合いで3日だけ認められたそうですが、それでは十分でないとのこと。毎回抗議集会に参加する衛藤さんは、「全く地元の農家に対する配慮がない。」と怒っておられました。

■松下竜一さんの言葉が今も心に

集会には、生前参加されていた松下竜一さん(大分県中津市出身の作家。1999年より日出生台演習場に抗議のため毎年通う。2004年67歳で死去)の遺影を持った方もおられ、何人の方がアピールの中で、「反対の声を上げない、反対の意思を表明しない者は、自ずから、賛成の中に数えられているんだ」という、松下さんがかつてこの集会で発言された言葉を挙げられていました。

また、当会でも切実に感じていましたが、こうした活動に若い人の参加が少ないのが残念または心配というアピールに対し、「みなさん、先ほどから若い人の参加が少ないという声が何度か挙がっていますが、私は若い人たちが参加して来ないとか、嘆かないようにしたいと思います。若い人たちが来なくても、私は杖をつくようになって、這ってでも参加して来たいです。私たち高齢者だけでも頑張っていきましょう！」という発言があり、なるほどと思いました。

こんな集会を持たなくてもよくなるのが一番ですが、また集まらないといけない時は、一緒に参加してみませんか？元気をもらえますよ！！(むねよしまこと)



70人近くが参加した抗議集会

浦島悦子の連続エッセイ 《南の島から》 No.46

「戦没者名名簿」を読む④

ヘリ基地いらない二見以北十区の会共同代表／フリーライター



「沖縄戦の縮図」と言われた伊江島の激戦。その中で、わが三原区も7人の戦死者を出している。

本部半島の西方約5キロの洋上にある面積約24平方キロの伊江島は、その平坦な地形から「飛行場建設の適地」とされ、この「不沈空母」の島の争奪をめぐる、日米両軍による住民を巻き込んだ血で血を洗う死闘が繰り返された。

日本軍は1944年、やんばるを中心に県内各市町村から多くの人々を徴用して伊江島飛行場を建設した。三原を含む旧久志村では人口の約30%が徴用され、中には5回以上行った人もいる。「赤紙と同様の強制」で、当初は男性だったが、その後は当時10代後半の女性たちの多くが「伊江島徴用」を経験し、重労働と飢えのみじめさを語っている。

飛行場造りと言っても、スコップや鍬、もっこなどの原始的道具を使っての作業、とりわけ、水の乏しい島では、その確保の苦労は並々ならぬものだった。

十・十空襲以降、たびたびの米軍空襲にも耐えながら1945年3月上旬、ようやく完成した伊江島飛行場はしかし、当の日本軍の命令によって爆破・破壊される。戦況が不利となり、米軍に使われないうようにするためだった。苦労して造っ

た飛行場を自分たちの手で破壊しなければならなかった人々の無念さはいかばかりだったことだろう。

米軍は3月23日から沖縄上陸に向けた大空襲を開始。伊江島にも焼夷弾の雨を降らせ、艦砲射撃も始まった。4月1日の米軍上陸後、艦砲射撃はますます激しくなり、伊江島と本部半島間の海は米艦船で真っ黒に埋め尽くされた。

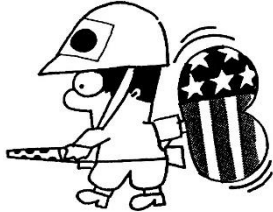
米軍は4月16日早朝、伊江島めがけて一斉に猛烈な艦砲射撃を行った後、上陸を開始し、6日間にわたる激戦が行われた。三原区の7人もこの戦闘の中、4月17~23日に集中して亡くなっている。この6日間の日本軍の戦死者は4706人にもものぼるが、そのほとんどが民間人だった。米国陸軍省編『沖縄 日米最後の戦闘』には、「…(伊江島において)日本軍は多数の民間人を戦闘員として使っていた。なかには乳飲み子を背負った婦人もいて、こういう人たちが斬り込み隊に加わり、みずから死ぬと知りながら米軍陣地に突撃し…」と書かれている。

この間、米軍も239人の死者を出した。その中には、沖縄戦を「ありったけの地獄を集めた」と表現した、有名な従軍記者アーニー・パイルも含まれている。

(うらしまえつこ)

自衛隊基地が米軍基地に変わる…

「築城基地のフィールドワーク」に参加しませんか



・滑走路の延長工事は今からですが、駐機場や弾薬庫をはじめとするその他の施設は、大体完成しているそうです。

・また、築城基地は「土地利用規制法」の特別注視区域の候補地となっています。

・詳しい事は、当日のレクチャーで…。

●集合日時…12月14日(木)8時50分 JR西小倉駅前集合

※世話人の車に分乗して9時には出発します。

●プログラム…「行橋京都教育会館」(行橋市今井 3680-7)にて、10時から40分～60分程のレクチャーを受けた後、築城基地周辺のフィールドワークに出発。

※フィールドワーク終了後、「メタセの杜」で昼食・休憩。現地を出発し帰路につくのは、13時～13時30分頃の予定

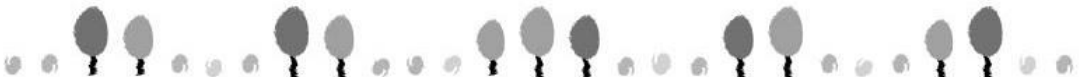
※レクチャーとフィールドワークの案内は「築城基地米軍基地化を許さない！京築住民会議」の方をお願いしています。

●募集定員…16名

●参加費…1000円

●申し込み先…松本秀樹まで(090-5295-1575)

●主催…辺野古土砂ストップ北九州



《辺野古土砂北九州・今後の予定》

- 11月08日(水)…《会報発送作業》14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
- 11月25日(土)…《小倉駅前街頭宣伝》16時～
- 11月29日(水)…《世話人会》14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
- 12月06日(水)…《会報発送作業》14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
- 12月09日(土)…《天久学習会》10時20分～ zoom
- 12月14日(木)…《築城基地フィールドワーク》8時50分・JR西小倉駅集合
- 12月25日(月)…《世話人会》10時～ 生涯学習総合センター・21学習室



「辺野古土砂ストップ北九州」への入会は

年会費(個人 1000 円・団体 3000 円)です。090-4482-0043 大野保徳までお電話いただければ、会報をお送りします。

【辺野古土砂北九州の口座は】 ゆうちょ銀行 記号番号 01700-7-166911

【他金融機関から振り込む場合は】 ゆうちょ銀行 当座 一七九店 0166911

加入者名…「辺野古土砂ストップ北九州」

【財政・入会・退会に関するお問い合わせは】

090-4482-0043 大野保徳(財政担当)まで。

※領収書は、現金で会費をいただいた方のみお送りし、振り込みの方にはお送りしていません。ご了承下さい。



《辺野古土砂ストップ北九州》

メールアドレス…kanpanerura888k@gmail.com

〒803-0816 福岡県北九州市小倉北区金田 1-3-32-308 八記方

八記 080-1730-8895・南川 090-2853-7116・藤堂 090-6299-2608

2023 年 11 月 8 日発行